

# 『コロナ禍における子どもたちのメンタルヘルス』

子どもと家族のメンタルクリニック やまねこ 田中 哲

## ○ はじめに

2020年、その子は何才だったろう？

## ○ コロナ不安の正体

安定した日常が見えなくなることの不安

戦う相手が見えないことの不安

いつ終わるのかわからない不安

(いつもならあてになる大人たちが頼りにならない状況…)

➡ あてになるものを探して不安を解消しようとする行動としての『幼児化』

## ○ 子どもたちとコロナ禍下の学校生活

多くの施策に先行した3ヶ月におよぶ学校閉鎖

イベントの中止を初めとする様々な行動制限

運動機能の低下・体重の増加など

ワクチン接種や感染による気遣いや差別

ICTの急速な導入と教師・生徒関係の質的な変化

COVID19に関する信頼できる情報の不足

➡ 安全に凝集できない子ども集団

## ○ 子どもたちの育ちの環境はどのように変化したか

#1. 直接の対面接触を回避する対人交流が常態化しつつある

他人との距離感と個人化するライフスタイルの加速

直接交流を基盤にしたコミュニティ機能の低下

子どもたちの社会性の育ちはどのように保障されるか

➡ 地域の共同養育基盤の低下

#2. 家庭の比重が増大しその家庭固有の問題が増幅される

感染に関しては家庭が運命共同体化しつつある

家庭内の安定した情緒的循環が維持しにくくなっている

感染に対する判断に家庭による較差が生じている

同世代集団の中で個別性を確立する子どもが家庭を基盤とする状況に引き戻される

➡ 家庭生活の閉塞感

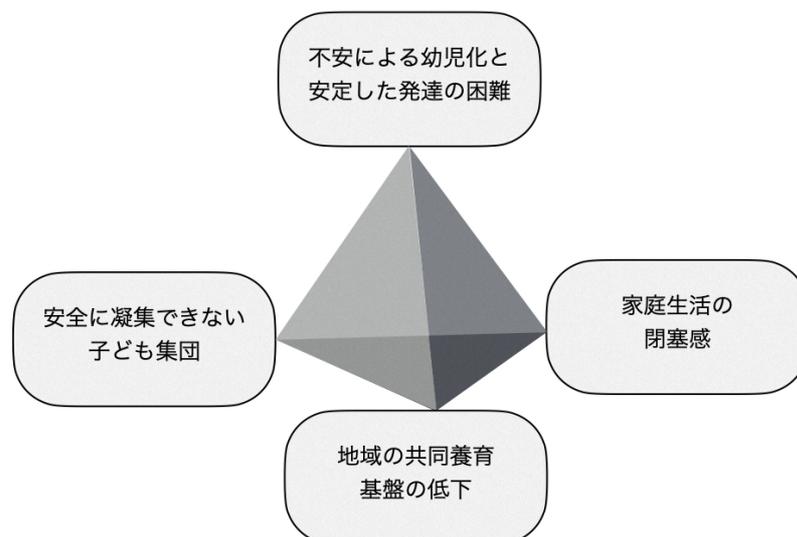
#3. 社会全体にフラストレーションが充満した状況

コロナウイルスが動かす世界の見通しのきかなさ

幸福の規準を経済指標におく限り、この時代の肯定感は低下せざるを得ない

大人社会の混迷を子どもたちはどのような目で見ているか

新型コロナについて子どもたちの間ではシニカルな見方が普通になってきている



○ **子どもたちのメンタルヘルス維持のための課題**

#1. 環境被害の長期的影響を回避する（工事中）

この時代の中で social communication を学ぶ方法

学校と家庭にリスクが集中することを避けるための居場所の多様化

大人になることに希望が持てるようなロールモデル

#2. 新しい状況を生きる姿勢（希望的）

歴史の当事者性

不寛容に陥らないこと

能動性の獲得

#3. 子どもたちの being を良い状態に維持する

being のための家庭機能を閉塞させない

doing の制限が being の低下につながらないために評価基準を画一化しない

包括的な新型コロナ情報に子どもがアクセスできる拠点を作る

子どもの育ちを共有するコミュニティの being に目を向ける

○ **おわりに**

コロナ時代を経験した世代（今の子どもたち）はどのような知恵を獲得して次の時代を作っていくのだろうか…